

ASAHIGAWASŌ DAYORI
旭川荘だより

100号記念

発行

社会福祉法人 旭川荘

〒703-8555

岡山市祇園地先

TEL 086-275-0131

FAX 086-275-5640

<http://www.asahigawasou.or.jp>



新年のあいさつ

旭川荘理事長 江草 安彦



新年おめでとうございます。

いよいよ二十一世紀を迎えました。今年には格別に意義深い年です。みなさんとご家族のご多幸を心からお祈りします。

二十世紀末のわが国の十年は「失われた十年」と言われ、経済の低迷・混乱から

今なお、脱出することができません。

ところで、国民生活ともっとも密接な社会保障、ことに福祉の面ではこの十年はどのような年であったのか。検証してみることにしましょう。

社会福祉基礎構造改革をめざして三年余の検討の結果、社会福祉法が成立。さらに公的介護保険の発足など二十一世紀の安心社会をめざした「助走の十年」であったと言えるのではないのでしょうか。

二十世紀は技術革新・産業の繁栄という光の部分が目立ちますが、一面、戦争・饑餓・差別・環境汚染・精神の退廃という影の部分のあったことを忘れることができません。まさに文明の危機であり、文化の薄れた時代でありました。二十一世紀は万人が安心して暮らせる「生命輝く世紀」にしなければなりません。

二十一世紀は「生命とくらし」、即ち平和・環境・文化に深く関与する医療福祉サービズに従事する私たちの出番だと言えます。

旭川荘は「敬天愛人」の理念の下に創立され、高い人間尊重の精神性を掲げ、活動を続けてきました。二十一世紀のスタートラインに立ち、私たちは創立時の理念をあらためて想起し、時代の変化を注視し、自己革新を強力に押しすすめ、二十一世紀型医療福祉サービズを提示し続けなければなりません。批評はするが行動はしないという集団的無責任体質に陥らないように自戒したいものです。



21. いきいき 楽しく

21世紀の幕開け ゆずり葉の森にカリヨンの軽やかな音が響きわたる
森のうちそとに希望に燃え 試練に立ち向かう顔 顔がある
さあ 友よ 共に歩こう 共に歌おう 共に生きよう



喜悦 今日も一日笑顔で元気に＝旭川児童院
(写真・旭川荘厚生専門学院生 山本純子さん)



誓詞 信頼と責任感、優しく笑顔を絶やさない＝旭川荘厚生専門学院



壮健 絵本のお話に熱中。楽しく元気な毎日
＝旭川乳児院



明快 運動会で紅白の玉入れを楽しみ
お年寄りたち＝旭川敬老園



共生 ボランティア、地域の人々と共に日々を
楽しく＝竜ノ口寮



恵沢 自然環境に恵まれて、気分も豊か＝吉備ワークホーム



就労 街の喫茶室で働く。「嬉しい、楽しい」と＝岡山市表町

旭川荘への期待

～21世紀いかにあるべきか～

旭川荘に求められるもの

旭川荘専務理事 末 光 茂



21世紀の日の出を迎え、いよいよ新しい時代の幕が開かれました。この時代の節目にあたり、「旭川荘だより」も昭和57年7月発行の第1号から数えて100号を迎えることになりました。そこで、旭川荘と深いご縁があり、各界でご活躍中のお三方にお願いし、それぞれのお立場から21世紀の旭川荘に期待する内容で原稿を寄せていただきました。

最初に、旭川荘が所在する自治体の長として萩原誠司岡山市長から、「国際福祉都市づくり」をめざす市の計画とそ中で期待される旭川荘の役割やこれからについてご意見を述べていただきます。

次いで、永年にわたり旭川荘を支えていただき、法人の理事もお勤めいただいている黒住教の黒住宗晴教主には、市民・ボランティアを代表する立場でこれからの旭川荘に期待する「夢」について語っていただきます。

最後に、介護保険の導入や社会福祉基礎構造改革、第四次医療法改正等の流れの中で、大きく揺れ動いている「医療福祉」の世界にあって、これからの旭川荘への期待、果たすべき役割などについて、川崎医療福祉大学の岡田喜篤副学長にご提言いただきます。

お三方のご期待、そして旭川荘を支えてくださる多くの皆様方の熱い思いを胸に、アジアの中の総合医療福祉施設として一層の充実を図るよう、関係者一同力を尽くす所存です。

よきパートナーとして

岡山市長 萩原 誠 司



新年明けましておめでとうございます。ごさいます。二十一世紀の幕開けとともに、この「旭川荘だより」が一〇〇号の記念号を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

平素から皆様方には、市政の各般にわたりご支援とご協力を賜っており、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

申すまでもなく旭川荘は、初代の川崎祐宣理事長、その後を継がれた江草安彦現理事長の卓越したリーダーシップのもと、今や名実ともに全国屈指の総合医療福祉施設にられました。

この間培われました輝かしい実績と豊かな経験を生かして、西大寺の新産業ゾー

新たな世紀を迎え、今後とも、旭川荘が、わが国の福祉のリーダーとして、世界に向けてますます羽ばたかれますとともに、本市のよきパートナーとして、夢のあるまちづくりに対して、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

真に開かれた施設・旭川荘

黒住教教主 黒住 宗 晴



皆様よ くご存じのよう、旭川荘は、川崎病院をはじめ

川崎医科大学などを創立された故川崎祐宣先生が、昭和三十三年に創設された当時としては珍しい医療と福祉が一体となった総合社会福祉法人です。先生は現役の外科医の時代から、「患者のための医師・病院」をその行動理念として、実際に「昼夜診療、年中無休」を貫いた方が旭川荘でした。医療だけでは手の施しようのない障害を持った方々に、医療とともに福祉、教育の必要を痛感されての決断でした。川崎病院の職員方の深い理解と協力を得、その上数多くの県民の協力のもとに旭川荘は誕生しました。

それは施設利用者はもとより、県民市民への徹底した奉仕精神を主軸にした施設でした。それが決定的なものとなったのは、昭和四十年、現理事長の江草安彦先生のご指導のもとに展開された重障児運動、今日の旭川児童院設立のための県民運動でした。数限りない県民、国民の参加を得て昭和四十二年に開設された児童院は、旭川荘の象徴的存在となりました。その上、当時まだ外国だった沖縄からの福祉施設職員を迎えたのを機に始まったいわゆる「福祉外交」は、南アジアの国々から今では中国上海市との深いつながりを生むまでに発展してゆきました。

この一連の動きは、まさに旭川荘の神髄ともいえるもので、この姿勢をますます貫く旭川荘であっていただきますたく願うものです。

医療福祉学の本質を求めて

川崎医療福祉大学副学長 岡田 喜 篤



宇宙船「地球号」は、めでたく二十一世紀を迎えた。

しかし、それは順風満帆な旅といえるだろうか。今、地球そのものが苦しみ出し、そこに住む人々は、何か大切なものを失ってしまったと感じ始めているのではないかと、二十一世紀は、間違いなく、「人について、地球について」考えなければならない時代だと思う。

太古の時代から、地球は激しく変化してきたし、さまざまな生物も、現れては滅びるといふ歴史を繰り返してきた。ところが、今や、人がしばしば地球を変え生態系を変え結果となっている。二十世紀は文明を高度に発達させ、人に便利さ・快適さ・豊かさをもたらしたが、それ

は同時に、本質的に大切なものを犠牲にする場合があることを示している。人は生きていく限り、いつか必ず根源的な苦しみに遭遇するという。生きる苦しみ、年老いていく苦しみ、病の苦しみに、そして死にゆく苦しみに、私たちは深く思いをいたさねばならない。医療も福祉も、人の生老病死に深く関わっている。旭川荘は、すでに四十年以上も前から、実践を通じてこの課題に挑み続けてきた。それを、学問として思想として、体系化しようというのが医療福祉学である。この学問は、一人ひとりの人生に深く関わることによってのみ成立するが、その歴史はようやく十年である。

改めて、旭川荘の鬱然として深淵なる営みの意味を噛みしめなければならぬと思う。

新しい時代への取り組み

主な事業

本年度新たに取り組んだ事業は、介護保険制度に合わせ高齢痴呆症のグループホーム「はなみずき」。通所介護事業の定員増と「はつらつ元気のつどい事業」。重度対策として重症心身障害児施設「睦学園」の定員増、高梁市での重症児通園事業。重度身体障害者授産施設「吉備ワークホーム」の通所定員増、知的障害者更生施設



睦学園 病室

「いづみ寮」に通所療養と地域生活のための生活ホーム「カトレア」と「つばき」などを開設しました。また、地域の子供たちが利用できる「さくら児童館」「梶谷記念ライブラリー」を開所し多くの子供たちが利用しています。社会福祉施設職員養成施設「厚生専門学

院」では、訪問看護、訪問看護実習のための在宅介護看護学習センターを川上町に開設しました。

利用者サービスでは社会福祉基礎構造改革に対応できるよう人権擁護、職員研修、苦情対応、情報開示、サービス評価に積極的に取り組んでいます。

雇用環境ではセクシユアルハラスメントの苦情、相談体制の整備と啓発、「岡山男女共同参画推進センター」での相談事業を開始しました。

障害を持つ人たちの情報バリアフリーを推進し社会の情報化の利便を享受し社会参加を計るための取り組みなど、荘全体でITの推進にも取り組んでいます。

主な研修

新しい時代の対応に職員の変容・成熟が求められているなか、職員研修は重要な取り組みの一つです。旭川荘は研修センターを中心に積極的、体系的研修を実施しています。

五月の「新採用職員研修」は従来の内容・日程を大幅に変更し開催しました。三十二年続いた療育研修会では中堅職員を対象により専門的な研修会として「旭川荘知的障害者医療福祉セミナー」として生まれ変わって開催し

ました。その他人権セミナー、介護保険セミナー、老人福祉セミナー、セクシユアルハラメント防止セミナー、新会計制度研修などの研修に取り組みました。

七月には、日本



末光専務理事の講義を受ける新任職員

旭川荘ごよみ

1月

- 11日 成人を祝う会.....睦学園
- 12日 成人式.....旭川児童院
- 新春を祝う会.....わかば青年寮
- 親子教室（風上げ大会）.....みどり学園
- 14日 父親の会総会.....バンビの家
- 15日 利用者の新年会.....かわかみ療養園
- 21日 家族活動日.....いづみ寮
- 28日 保護者・家族・職員合同研修会... 旭川学園、いづみ寮、愛育寮
- 28日 一般1次入学試験.....旭川荘厚生専門学院
- 29日～2/23日旭川荘写真作品展
(三菱信託銀行)全施設

2月

- 2～5日 節分、豆まき.....かわかみ療養園、旭川学園、あかしゃ園、みどり学園、旭川乳児院
- 3日 家族活動日.....いづみ寮
- 7日 家族研修会（県外施設見学）.....愛育寮
- 17日 保護者役員会・作業日.....旭川学園
- 18日 家族活動日.....いづみ寮、たかはし授産センター
- 20日 生活発表会（通園）.....旭川療育園
- 21日 卒業研究発表会(介護福祉科、福祉研究科).....旭川荘厚生専門学院
- 22日 ゆうあい文化祭.....知的障害者施設
- 24日 家族懇談会、ひな祭り会食.....あかしゃ園
- 25日 大人の集い.....バンビの家
- 27日 児童福祉科卒業演奏会(県福祉会館).....旭川荘厚生専門学院

編集後記

あけましておめでとうございます。本号は「二十一世紀一月一日発行一〇〇号」ということになりました。一〇〇号特集として二十一世紀への展望に関わるテーマで紙面を構成しました。新世紀始まりの今年も「旭川荘だより」をご愛読下さいますようお願いいたします。

発達障害学会第三十五回研究大会を旭川荘が担当し、全国から多くの関係者が参加し研究の成果が発表されました。